

MAR, 2025 | VOL.108



ARMY

Active Reliance Morale Yearning

陸上自衛隊 部内広報誌

TOP

POTY / MOTY 2024

(令和6年度写真・動画コンテスト)

陸上自衛隊フォーラム

陸幕長の活動 (LFS、イタリア陸軍参謀長招待、オランダ・ドイツ・トルコ・イギリス訪問)
空挺降下訓練始め・国際空挺指揮官会議
共同訓練 (VI24、NW25)
UNTPP (国連三角パートナーシップ@ウガンダ、カンボジア)
能力構築支援 (ソロモン諸島)
ジャングル戦シンポジウム (ブルネイ)
etc.

目次



POTY2024

写真コンテストにて受賞した作品を紹介！
森下陸幕長が選出した陸上幕僚長賞を始め、プロ写真家が選出した最優秀賞、優秀賞、奨励賞、プロ写真家賞、そしてSNSでの投票によりSNS賞が選出され、計12作品が受賞しました。



MOTY2024

動画コンテストにて受賞した作品を紹介！
森下陸幕長が選出した陸上幕僚長賞を始め、プロ映像作家が選出した最優秀賞、そしてSNSでの投票によりSNS賞が選出され、計3作品が受賞しました。



陸上自衛隊フォーラム

「ウクライナにおける戦争が陸戦に及ぼす影響と課題」をテーマに開催！



共同訓練

VI24 (ヴィジラント・アイルズ24)
NW25 (ノース・ウインド25)



UNTPP

国連三角パートナーシッププログラム
@ウガンダ・カンボジア 他



陸上幕僚長の活動

ARMY
Vol.108

L F S

令和6年12月14日～15日、森下陸幕長は米太平洋陸軍司令官・米太平洋海兵隊司令官、豪陸軍司令官、フィリピン陸軍司令官・フィリピン海兵隊司令官、インド陸軍参謀長と、陸軍種トップによる会議「LFS」（Land Forces Summit）を開催しました。



イタリア陸軍参謀長招待

令和7年1月10日～12日、森下陸幕長はイタリア陸軍参謀長マシエロ中將を招待しました。欧州大西洋とインド太平洋の戦略環境について意見交換し、国際秩序の維持・強化に向け強力していくことで一致しました。



オランダ訪問

令和6年11月24日～26日、森下陸幕長はオランダ王国を訪問し、スウィレンス陸軍司令官と懇談を行いました。両国の陸軍種間で一層の関係強化を図ることを確認しました。



ドイツ訪問

令和6年11月26日～29日、森下陸幕長はドイツ連邦共和国を訪問し、マイス陸軍総監と懇談を行うとともに、オランダを含め3カ国の防衛協力・交流を見据えたロードマップに合意・署名しました。



トルコ訪問

令和7年1月26日～28日、森下陸幕長はトルコ共和国を訪問し、バイラクタルオール陸軍司令官との懇談を行いました。外交樹立100周年を迎えた両国において防衛協力・交流の発展について合意しました。



イギリス訪問

令和7年1月29日～31日、森下陸幕長は英国を訪問し、ウォーカー陸軍参謀長との懇談を行いました。両国陸軍種間の防衛協力・交流について強化していく旨を確認しました。



Photo Of The Year 2024



令和6年度陸上自衛隊 写真コンテスト

審査員講評

物音もせず、どんどん積もるような雪の降る中。粛々と整列している隊員達への撮り手の敬意が伝わる絵。今までに無い絵画的着眼点だと思います。おそらく石田3曹の頭や肩も雪が積もり始めていたと思うが、かまわずシャッターを切ったであろう点を評価したい。カメラの露出補正を+補正するともう少し明るく描写され制服や顔の質感や“白雪感”が一層出せたかもしれません。
(小見哲彦)



しらゆき 「歓迎の白雪」

第20普通科連隊
3等陸曹 石田 玲菜

【撮影状況 中隊長着任行事】

撮影者コメント

この度は、数多くの作品の中からこの写真を評価して頂きありがとうございます。とても嬉しく光栄に思います。今後も任務にあたる陸上自衛官の真摯かつありのままの姿、胸の内に燃やす感情を多くの方に届けられるよう、失敗を恐れず、シャッターを切り続けてまいります。



Photo Of The Year 2024



令和6年度陸上自衛隊 写真コンテスト



「躍進」

東部方面混成団
3等陸曹 真弓 真由

【撮影状況 新隊員戦闘訓練】

撮影者コメント

この度は最優秀賞という輝かしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。悪天候の中行われた戦闘訓練でしたが「前へ!」の号令と共に駆け出す彼らの姿は気迫に満ちており、気持ちが爆ぜる瞬間を撮影でき私自身心が昂った事を今でも覚えています。今後も教育に励む隊員の姿を残せる様、共に心を燃やしながら撮影に邁進いたします。

審査員講評

1番手前の隊員の眼力に魅かれました。ピントもばっちりなので、隊員の表情を逃さないばかりか、空を舞う雨粒、迷彩服の濡れ具合、体や銃にまわりつく土や草もしっかり表現され、迫力を増しています。奥に並ぶ隊員たちがそれぞれ異なる姿勢であることも相まって、まるで弾かれたボールのような躍動感が伝わってきます。映画のワンシーンのように見えるのは構図もしっかりしているから。写真の中にドラマを持たせるのは簡単なことではなく、日頃からそうした写真を撮り慣れている技量の高さも感じました。(菊池雅之)



Photo Of The Year 2024



「この子のために」

第6師団司令部付隊
3等陸曹 山田 亮

【撮影状況 師団記念行事にて】

撮影者コメント

この作品を評価して頂いたSNSユーザーの皆様、この撮影に協力してくれた同期、ご家族に感謝の気持ちでいっぱいです。閲覧数等から分かるように、1枚の写真がもたらす効果や可能性を感じることができました。引き続き、1枚の写真に対する「こだわり」を忘れることなく、皆様が求める写真を撮影できるよう精進いたします。

令和6年度陸上自衛隊 写真コンテスト

審査員講評

本年度作品には我が子といっしょの作品に秀作が多い。古見1曹による「海誓山盟」はもちろん、「荒鷲の一撃」を撮影した町田曹長による他作品「再会の手紙」等である。どれも微笑ましくもあり、さらにこっちがもらい泣きしてしまうようなストーリー性も胎み、甲乙つけがたかった。が、本作品の秀逸な点はまずはこの無駄のないアングル、レンズは当然300mm以上の望遠、そのフォーカスのシビアな望遠レンズを駆使して、よくぞ、父子双方の眼(まなこ)にフォーカスを合わせた!ドーランを塗りたくりグラサンかけたという家庭では決して見ない、いかつい父の姿にもかかわらず乳飲み子は本能的に父と悟り微笑みを返す・・・見てるこっちまで落涙しそうである。(宮嶋茂樹)



「咆哮」

第41普通科連隊
3等陸曹
佐藤 明紀

審査員講評

【撮影状況 第3回連隊練成射撃（81mm迫撃砲）】

今年度、いや過去の迫撃砲射撃の作品も含めても、本作品が最高であろう。まずは射手の表情、両目は鉄パチに隠れてるし、第一開けてないから写ってなくてもいいんやが、真白き健康そうな歯にフォーカスがドンピシャ、迫とそれを扱う人間どちらが主役か作者の意図も明らかである。とはいえ、迫の砲口から飛び出た砲弾の弾頭がファイアーボールにちょうど埋まるという、このタイミングにである。さらに迫の砲身が射撃時の衝撃で微妙にぶれているというこのシャッター速度の選択、おそらく1/1000秒ほどか。これを計算して、このアングルから意図して撮ったとしたら、恐るべき手練れである。惜しむらくは主役の射手の陰になった表情だけをもう少し明るく調整すれば、その白い歯とのコントラストも引き立ち画面も引き締まるに違いない。タイトルもシンプルでいい。あっ、砲口と咆哮をかけたんか！やるのう・・・。（宮嶋茂樹）



第1師団司令部付隊
1等陸曹
古見 宗一郎



審査員講評

【撮影状況 DGPE出国時の空港にて】

海外での任務に旅立つお父さんとお子さんとの別れの場面を、古見1曹は照明機材などを使わずその場の明かりで、三人の静かな時間を邪魔する事なく撮影されています。別れの現場の空気感までが画面から伝わってくるようです。気になるのは三人の足元の処理です。三人の足先まで写っていたらどうでしょうか？子供達が爪先立ちだったらどうか？などと想像してしまいます。この後の別れの場面も含め、色々とイメージが膨らむ印象深い作品です。（福田正紀）



奨励賞

「眼光」

第1ヘリコプター団
3等陸曹 氏家 一輝

審査員講評

光のない時間帯。暗視ゴーグルの光がスポットライトのように隊員の目を照らす。隊員のアップとはせず、広めの画角で情景を押さえたので、スローシャッター効果により眼下の森林が波のようにうねっている様子も写し込まれ、迫力も伝わってきます。きつとシャッターを押すまでにいろいろと考えて撮られたことでしょう。(菊池雅之)



【撮影状況 千葉県房総半島における戦技飛行】



奨励賞

「砕けない意志」

第10師団司令部付隊
陸曹長 大蔵 浩二

審査員講評

厳しい訓練から戻った隊員の力強さを非常にシャープな画質と被写界深度設定の上手さで背後のボケ具合も程よく描写した力作でした。全体がややローキーな絵柄の中にレンジャー旗の黄色の縁以外に明るいトーンが無く写真全体が引き締まった感じなのも高評価でした。もう少しだけ“引いて”いたら隊員と旗間が相対的に縮まったと思います。(小見哲彦)



【撮影状況 レンジャー訓練の帰還報告】

【撮影状況 東富士演習場における自由降下】



奨励賞

「降下！」

第1空挺団
2等陸曹 神 博崇

審査員講評

アクション映画のような緊迫感ながらちょっとコミカルに後ろ向きにジャンプするマスターパラシューターのポーズ。それに続く隊員の”止まってるのに動感”を感じさせてくれた良作。左側隊員の歪みから対角線魚眼レンズを使ったと思われますがストロボ光軸と配光をよく見極め周辺が露出オーバーになっていないのも理想的でした。(小見哲彦)



【撮影状況 千葉県保田海岸における空挺降下】



「いざ水上へ」

第1空挺団

1等陸曹 太田 宗佐

審査員講評

第1空挺団による降下訓練の様子を機上で捉えた写真は毎年拝見しますが、こちらの作品は、今までとは違って見えました。それは、眼下の景色、そして先に飛び降りた仲間の姿もしっかりと綺麗に写し込まれていたからです。さらにストロボをたいたことで、これから降下する隊員が浮き上がって見え、かつ機内から足が離れた状態で、ピタリと止まっているのも面白いです。(菊池雅之)



【撮影状況 能登半島地震に伴う災害派遣（輪島市）】



「落暮拾い」

システム通信団

2等陸曹 田熊 修

審査員講評

まさに、「現場に赴く”中の人”」でなければ撮れないリアルな写真です。雪が降り積もろうが災害の地での地道で献身的な作業を語ってます。速いシャッタースピードで雪を止めた事で後方状況も分かり、良い判断だったと思います。長期間の派遣で努力された多くの隊員諸氏の姿(入浴支援も含め)を国民に理解してもらえる力があると感じます。画面左右が切られているように感じますが、いっそ空を少しカットしたら余分な明るいトーンが減って良かったかも?と感じました。(小見哲彦)



【撮影状況 東部方面隊狙撃集合訓練】



「荒鷲の一撃」

第12旅団司令部付隊

陸曹長 町田 康行

審査員講評

思わず唸りました、「なるほどこの手があったか」
小銃や対人狙撃銃の射撃の写真は目にすることはありますが、動かず音もしない静止画の写真では、発砲炎のない小火器射撃の瞬間は想像するしかありません。町田曹長は対人狙撃銃の射撃の瞬間を、銃だけをブラすことで見事に表現されました。ベテランならではの技ありの作品です。(福田正紀)



【撮影状況 自衛官候補生の銃貸与式】



「銃貸与式」

第8普通科連隊

3等陸曹 高本 敬司

審査員講評

惜しい!実に惜しい!もう少しアングルを下げ、かつアップにトリミングでき、かつ若干のブレがなくなれば、間違いなく最優秀賞に推していた。しかしそれらマイナス要素を忘れさせて余りある、この女性候補生の表情をよくぞ見逃さなかった。「事あらば我が身を顧ず国を守る」覚悟で入隊したはず、しかし自衛官しか手にすることが許されぬ小銃を手渡され、その手から感ずる重さとともに責任の重さまで実感し、思わず一抹の不安がよぎり上官の顔を見つめてしまった、まさにそんなストーリー性まで垣間見える。「大丈夫、これからの厳しい訓練だけが貴女に自信を与えてくれる」、と思わず応援したくなる、そんなほのぼのとした思いに浸らせてくれる作品である。(宮嶋茂樹)



Movie Of The Year 2024

令和6年度 陸上自衛隊動画コンテスト

陸上幕僚長賞

「大雪の湯」

第2通信大隊
2等陸曹 一宮 亜也

〈制作者コメント〉



多くの素晴らしい応募作品の中から選考して頂き、本当にありがとうございます。私自身、初めての災害派遣で生涯記憶に残る受賞となりました。この動画は、人と人のあたたかい繋がりをテーマに「利用者に少しでも安らげる場所を！」と派遣隊員1人1人が真心込めて浴場を運営する姿が伝わるよう作成しました。

〈審査員コメント〉

心温まる非常にエモーショナルな作品でした。扱う題材が「何らかの災害がありそれを当たり前の様に、必然的に助ける自衛官」という内容で、災派という国民が持つ印象も乗っかりある意味アドバンテージがある題材ではありますが、自画自賛感、手前味噌感がなく嫌味のない表現力で仕上げられている素晴らしい作品であると思います。ひよこを洗う自衛官、動物の形をした水温計など環境的な映像も効果的なタイミングで途中に挟まり、大切にしているものは目に見えているものだけではないという思いが伝わる編集でした。選曲もシーンを助長しつつも決して前に出過ぎず気持ちの良い構成で、全体を通して良質な短編のショートフィルムを見ている様でした。（西見茂雄）

最優秀賞

「生地に咲く落下傘の花」

第1空挺団
2等陸曹 長野 本誓

〈制作者コメント〉



この作品を通じて、第1空挺団における日々の過酷な訓練を、皆さんにお伝えすることが出来れば光栄です。本作品以外にも、様々な訓練映像を制作していますので、気になる方は、ぜひ、第1空挺団公式YouTube及びXをご覧ください。

〈審査員コメント〉

空挺団の誇りと団結力、日々培ってきた強靱な精神力を深く感じさせるものでした。空を舞う落下傘が、まるで花が咲くかのように優雅に広がるシーンは、数々の厳しい訓練や挑戦を乗り越えた空挺団の隊員たちの姿を象徴していると思いました。落下傘が静かに大地に降り立つ瞬間、その美しさと力強さが融合し、空挺団の精神を体現していることが伝わってきます。地上に降り立った隊員たちは、長年にわたる訓練で培った戦術的な冷静さや判断力、そして何よりも仲間への深い信頼と絆を胸に、その一步一步を踏みしめているように見えました。映像の中で広がる落下傘の花は、単なる美しい映像にとどまらず、空挺団の使命感や誇りを象徴する強いメッセージとなっています。その姿勢や精神に感動し、空挺団という強力なチームの一員であることへの誇りと共に、何事にも屈しない意志を感じ取ると思います。（藤原佐知子）

SNS賞

「強襲奪回」

水陸機動団
2等陸曹 氏家 隆也

〈制作者コメント〉

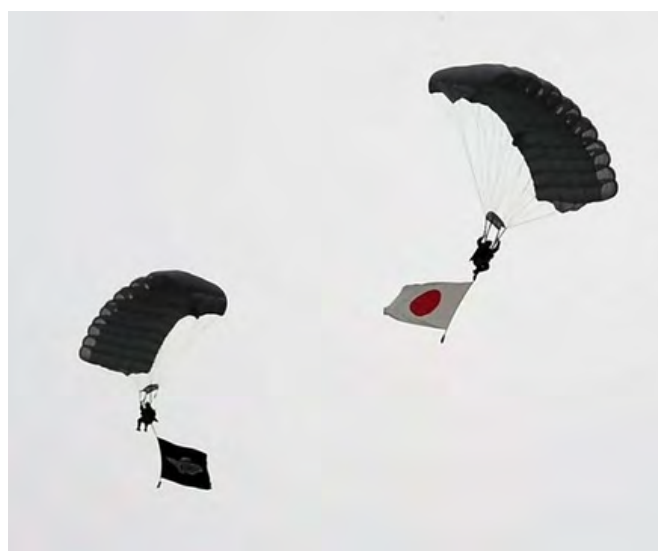


この度は、水陸機動団の映像をご覧いただき誠にありがとうございます。皆様のたくさんのご声援のおかげでSNS賞を受賞することができました。映像制作にあたり、特に色、音楽及び場面転換にこだわり、視聴する方が臨場感を感じられるよう制作しました。今後も抑止力に繋がる映像を制作できるよう日々精進してまいります。

〈審査員コメント〉

人（視聴者）に「見せる」ということを非常に意識された素晴らしい作品だと感じました。撮影素材もそのまま使用せず色補正を行い、惹きつける静的なBGMから入り躍動的で部隊の特性をイメージさせる緊迫感溢れるBGMへと移り、各種編集点もBGMとの合わせをしっかりと意識し飽きさせない展開を感じました。無駄なカットも少なく「強襲奪回」というタイトルのもと水陸機動団という部隊の特色を効果的に見せることが出来ていると思います。（西見茂雄）

空挺降下訓練始め・国際空挺指揮官会議



国際空挺指揮官会議

陸上総隊第1空挺団は、令和7年1月10日、習志野駐屯地において11カ国の同盟国・同志国の空挺部隊指揮官を招待して国際空挺指揮官会議を開催しました。

本会議では、若松空挺団長が議長となり、空挺部隊の運用や訓練に関する意見交換等を実施しました。



空挺降下訓練始め

陸上総隊第1空挺団は、令和7年1月12日、習志野駐屯地及び同訓練場において、中谷防衛大臣ご臨席のもと、11カ国の空挺部隊と共に令和7年空挺降下訓練始めを実施しました。

参加国の指揮官降下の後、今年のシナリオでは、自由降下に始まる島しょ防衛作戦における陸自第1空挺団の行動に引き続き、同盟国・同志国の来援を得て強固な抑止・対処態勢を構築する一連の流れを展示しました。



令和6年度陸上自衛隊フォーラム JGSDF FORUM

ウクライナにおける戦争が陸戦に及ぼす影響と課題



森下陸上幕僚長による基調講演
「陸上自衛隊の取組と今後の方向性」



オープニングリマークス



パネルディスカッション
「陸上作戦における各種無人機、ロボット
及びAIが担う役割と今後の進展」



防衛関連企業による展示

陸上自衛隊フォーラム：1日目

陸幕長の基調講演等

廣惠教育訓練研究本部長を実行委員長として、2月18日から19日の間、令和6年度陸上自衛隊フォーラムを実施しました。1日目は、森下陸上幕僚長の基調講演や教育訓練研究本部の陸上自衛隊2040を発表するとともに、産学官を交えたパネルディスカッションを行いました。



【実行委員長：陸将 廣惠次郎】

陸上自衛隊フォーラム：2日目

ゲストによる講演等

最終日は、陸修偕行社より岩田元陸上幕僚長や高田元陸上総隊司令官等をゲストにお迎えして講演いただくとともに、産学官を交えたパネルディスカッションや陸上自衛隊職種学校からブリーフィングを行いました。



陸自フォーラムテーマ

**ウクライナにおける戦争が
陸戦に及ぼす影響と課題**

今回の陸上自衛隊フォーラムでは「ウクライナにおける戦争が陸戦に及ぼす影響と課題」をテーマに、産学官の知見を合わせることで防衛力整備の推進に必要なイノベーションの資を得ることができました。

今後も更なる陸上防衛力の強化のため深化したフォーラムにしていきたいと思います。



共同訓練

ヴィジラント・アイルズ

VIGILANT ISLES

24



令和6年度英陸軍との実動訓練

令和7年1月15日～26日までの間、陸上自衛隊は、日出生台演習場等において、令和6年度英陸軍との実動訓練（ヴィジラント・アイルズ24）を実施しました。

東部方面総監 陸将 富樫勇一

担任官

第12旅団、第1空挺団等

実施部隊

本訓練により、島しょ防衛に係る作戦遂行能力の向上に資するとともに、陸自と英陸軍との相互理解・信頼関係の促進を図りました。

本訓練の特色は、日本国内において日英円滑化協定を適用して実施している点にあります。高い空中機動能力を有する第12旅団が英陸軍及び第1空挺団と連携し、島国である日英両国の共同による島しょ防衛作戦に係る訓練を実施しました。





共同訓練

ノース・ウインド

NORTH WIND

25



令和6年度米陸軍との実動訓練

令和7年1月31日～2月9日までの間、陸上自衛隊は、真駒内駐屯地、南恵庭駐屯地、丘珠駐屯地及び北海道大演習場において、令和6年度米陸軍との実動訓練（ノース・ウインド25）を実施しました。

北部方面総監 陸将 末吉洋明

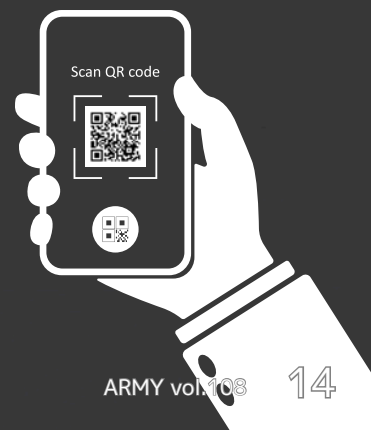
担任官

第11旅団第18普通科連隊 等

実施部隊

本訓練により、日米両陸軍の積雪寒冷地における作戦遂行能力及び相互運用性の向上を図りました。

本訓練の特色は、中隊レベルを焦点とした実動訓練に加え、陸自の連隊と米陸軍大隊レベルでの指揮幕僚活動を演練した点にあります。更に積雪寒冷地における日米共同の兵站・衛生の基盤的機能を含む一連の作戦行動を演練しました。





ウガンダ

UNTTP(国連三角パートナーシップ・プログラム)の教官要員としてウガンダ共和国へ派遣されていた衛生学校の野村3佐は、令和6年11月25日から同年12月10日の間、各国の国連PKO派遣要員に対して、戦傷病に対する応急救護法に係る訓練を実施しました。



カンボジア

UNTTP(国連三角パートナーシップ・プログラム)の教官団としてカンボジア王国へ派遣されていた第4施設団山下2佐以下20名は、令和6年11月18日から同年12月20日の間、アジア各国の工兵要員に対して、重機操作訓練を実施しました。本訓練は、UNTTPでは初の多国間連携として、日韓豪の共同実施により、重機操作訓練を日本と韓国で、IED対処訓練を韓国と豪州で、負傷者の野外救護訓練を韓国で担当し、訓練の最終週にこれらを一連の流れで実施する総合訓練を行いました。

United Nations Triangular Partnership Programme

能力構築支援

Capacity Building



ソロモン諸島

武器学校の隊員4名は、2月1日から2月17日の間、ソロモン諸島において不発弾処理分野での教育を行いました。ソロモン諸島に今なお残存する先の大戦における砲弾の回収・処理及び安全確保に係る教育を実施し、ソロモン国家警察の能力向上に寄与しました。



ブルネイ

11月24日から27日の間、ブルネイで行われたジャングル戦シンポジウムに陸自として初めて2名の隊員を派遣しました。令和6年は、日・ブルネイ外交関係樹立40周年であり、両国の一層の友好関係強化のため、陸軍種間の交流も推進してまいります。

Jungle Warfare Symposium

陸上自衛隊最先任上級曹長の活動

部隊現況把握

隊員との意見交換、勤務環境及び生活環境の現地確認（隊員激励）を通じ、部隊及び隊員の状況を把握しています。引き続き綿引陸自最先任は様々な活動を通じて、陸上自衛隊の更なる強靱化に努めます。

- ① 幹部候補生学校教導隊（隊員懇談）
- ② 小平学校（上級人事課程）
- ③ 自衛隊海上輸送群（仮称）
- ④ 福岡地方協力本部（隊員懇談）
- ⑤ 自衛隊音楽まつり（東北方面音楽隊・フラッグ隊）
- ⑥ 水陸機動団戦闘上陸大隊（隊員激励）
- ⑦ 施設学校（初級陸曹木工課程）
- ⑧ 東北方面衛生隊（衛生訓練センター）
- ⑨ 東北方面特科連隊第1大隊（生活環境実視）
- ⑩ 第4後方支援連隊補給隊（新隊員後期課程）



生活・勤務環境の改善・魅力化

令和5年度以降、隊員の生活・勤務環境を改善・魅力化するため、施設の建替・修繕、被服、営舎用備品、寝具等の更新、宿舎の整備、人的基盤維持備品（厚生用備品等）の整備を順次、推進しています。

令和7年度はさらに加速して整備を推進していきます。



仕様を見直した備品 （家具類・寝具類）の充実

- 仕様を見直した備品（家具類）の充実（既に八尾駐屯地、健軍駐屯地等で導入）
- 令和10年度末までに、家電類は各駐屯地の特性に合わせて必要性や優生順位を定め整備



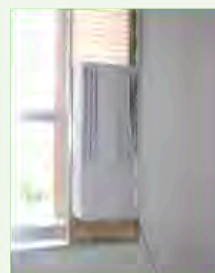
【接触冷感のタオルケット】



【木製の靴箱】

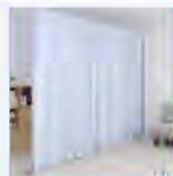
空調機

- 令和7年度末までに、全館空調のない隊舎等にルームエアコンを設置
- ルームエアコンの設置が困難な居室（北部方面隊の一部）については窓用エアコンのレンタル等に対応



プライバシー確保

- 令和7年度末までに、一人1枚のパーティション等プライバシー確保のための備品整備を完了
- 令和6年以降に設計した隊舎から完全個室化を導入



通信環境

令和7年度末までに、全ての駐屯地・分屯地の生活隊舎、厚生施設に通信環（Wi-Fi）を1回線整備



パンフレット

- 自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針の策定を受け、防衛省としてパンフレットを作成しました。
- 2月18日に部外公開されましたのでご紹介します。
- 是非、家族への周知、募集活動での活用等をお願いします。



二次元コードはこちら





後輩は自らの手で！！

隊員自主募集 ご協力をお願いします

いつも多くの自主募集情報ありがとうございます。

昨年度の入隊者のうち、
自主募集情報からの入隊者は
約30%
いるんです

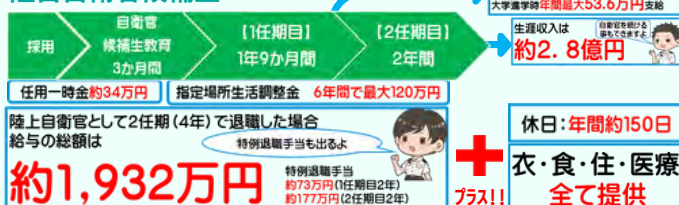


▼ 自衛官の処遇改善



自衛官募集HPにて、これから見直しが加速する自衛官の処遇改善に関する情報を発信しています！

▶ 陸自自衛官候補生



自衛官の本質的な魅力だけでなく、処遇面での充実状況もよくご承知いただき、自衛隊の魅力発信にご協力をお願いします。

■ 自衛官募集公式

Youtubeチャンネル

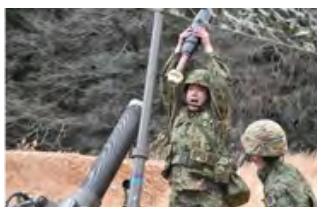


【陸上自衛隊オフィスツアー】



【隊員の日常】

陸自の募集広報動画「陸上自衛隊オフィスツアー」、「隊員の日常」、やす子さんとはコラボした陸自ロゴ作成動画など、自衛官としての職業の魅力を紹介する多数の動画を掲載しています！



即応予備自衛官 招集訓練(小隊検閲等)の実施

中部方面隊では、2月10日から13日までの間、第49普通科連隊による即応予備自衛官招集訓練が行われました。

重迫撃砲中隊長指揮のもと、小隊検閲、120M非実射訓練、陣地進入訓練等を行いました。最終日には陣地進入競技会を実施し、練成訓練の成果を遺憾なく発揮しました。

退職後も即応予備自衛官として、常備自衛官とともに国防の一端を担いませんか！

【引用元】第49普通科連隊(豊川)

予備自衛官(技能：放射線管理) による特別な招集訓練の実施

化学学校では、1月24日から25日までの間、放射線管理取扱主任者の資格を有する技能公募予備自衛官を全国から招集し、特別な招集訓練を実施しました。

放射線物質の検知器材(線量率計)を活用した実習を行い、汚染物質(模擬剤)が付着した素材の除去要領及び汚染物質の特性に応じた洗浄要領を練成しました。

予備自衛官は様々な訓練を実施しています！皆さんの志願をお待ちしております。

【引用元】化学学校(大宮)

SPRING

VOL.108

JGSDF Internal PR Magazine

ARMY

